

建 築 家

通 信

2014.9.30

vol.103



公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
JIA長野県クラブ

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

雲を眺める時間を持ちたい。

香山 壽夫



千ヶ滝の山荘



「香山 壽夫氏と語る会」



室内での風景



テラスにて

大空に浮かび、あるいは流れていく雲を見ることは楽しい。仕事の合い間、道を歩く時、あるいは庭仕事の手を休めて、雲を眺める。幼い頃暮した満州の新京は、大平原の中の町だったから、雲は地平線から湧き、大空を横切って反対側の地平に消えた。夕焼は、空全体を赤く燃え上がらせた。越後平野の北にある母の里の小さな町に引揚げてきてからは、屋根にのぼって雲の絵ばかり描いていた時期があった。砂丘のむこうに沈む夕日の彼方にある満州が見えるような気がしたのである。アメリカに行き、ヨーロッパを流れ歩き、そして日本に帰って忙しく仕事に追われるようになってから、いつの間にか、のんびり、ゆっくり雲を眺める時間は無くしてしまっていた。

しかし、近頃、再びその時間がもどってきた。ありがたいことだ。年を取ると、若い時のように、一気呵成に何時間でも仕事を続ける体力は無くなる。どうしても、手を休め、一息つかねばならない。そこでぼんやりする。ただぼんやりしていればいいので、本のページをめくっても、テレビをつけてもいいのだが、私はテレビは嫌いだし、目が疲れて休んでいることが多いので、本も読めない。それで、空を見上げ、雲を眺めることになる。これが嬉しい。楽しい。心休まる。老人は失っていくばかりではない、得することもあるのだ。

春の空にフワフワ浮かぶ綿雲。夏の空にモクモク立ち昇る入道雲。秋の澄み切った空を大きく横切るイワシ雲やサバ雲。思わず「オーイ」と呼びかけたくなる。冬の雲は、いろいろあって、これひとつというものはないが、切れ切れに飛ぶ雲も、押し寄せる雪雲も鋭さと動きがあって面白い。

なにもしないで、ただぼんやり雲を眺めていると、とりとめもないことが雲のようにいろいろ頭の中に浮かび流れていく。それがまたいい。きちっとしたことは、机か製図板の前で

考えればいい。何を考え、思っていたのか、後で考えてみると、それはほとんど全て昔のことであることに気が付いた。自分の昔の出来事や周りの人々、それだけ



でなく、日本の昔、さらには人類の昔。縄文の人もこのような雲を眺めていたか。狩猟採取の合い間に見上げた雲はどんなものだったのだろう。昔を憶うことは、今ここに在る自分を思うことだ。将来のこと、未来のことを考えて不安になったりしない。今ある自分をありがたいと思う。そこが雲をぼんやり眺める時の幸せだ。

雲の下に、木々の梢、山並み、地平線、そして美しい屋根があるといい。雲の下には、美しく優しい屋根が欲しい。昔からある伝統的な屋根は、日本のものでも西洋のものでも皆美しい。切妻の連なり重なる町並み、そこから立ち上る塔の屋根も、その上に浮かぶ丸屋根も全て美しい。一方、このごろ流行しているグニャグニャした屋根、壁だか屋根だか何だかわからないかたちは、雲の下で見ると耐えない。日本だけでない。この夏の始め、久しぶりにパリとロンドンに行って、改めてそう思った。伝統的な町並みの屋根の、落ち着きと優美とは対照的に、雑多なグニャグニャ屋根の折り重なりつつ続く郊外や新都市の乱雑と醜悪。この差は雲をゆっくり眺める時間のあった昔の人と、その時間を持たない人との差から生まれるのではないか。こういう屋根をつくと天も嘆き悲しんで天候も異常になるのではないかという気がしてくる。仕事が忙しい時こそ、のんびり雲を眺める時間を持ちたいものだ。

小諸まちなみウォッチング



小諸まちなみウォッチング。さて我が町は...

平井 敦典



7月の終わり、小諸まちなみウォッチングに参加。当日はこの夏一番の暑さということもあり、照り付ける日差しがとても厳しい一日。しかも小諸は坂の町...。まちなみを見学するにも体力勝負?な感は否めません。私の住む飯山市も小諸市同様に島崎藤村ゆかりの地。むか〜し佐久に現場を持っていた頃、立ち寄ることも多かったのですが、高速交通網が発展してからは10数年ぶりに訪れることが出来ました。人口規模は我が町の約2倍、北国街道の宿場町の面影を今も

しっかりと残す「まちなみ」は凛とした印象を受けます。同じ長野県、我が町から数十キロしか離れていない町でも風土の違いから建築のカタチに違いを感じます。本町エリアは修景事業が盛んで住民の「まちづくり」に対する意識の高さが伺えました。来年3月に新幹線開業を迎える我が町と新幹線停車を逃した小諸市。大きく変わる人の流れは「まち」の形を変えて行きます。どちらが良かったか問われるのは少し時が流れてから...。そのためにどのようなアプローチが出来るか建築に関わるサイドから考えなければと思います。

詩情のある町、小諸。

吉田 満



明治〜大正に栄えた商家の町並みが旧街道沿いに今もしっかり残され、継続的に使用され、リユースされている様子が分かりました。

7月の暑い一日、小諸まちなみウォッチングに参加しました。私自身、小諸を訪れるのはまだ数回しかなく、前回訪れた時は小山敬三美術館や小諸城址懐古園を足早に見た覚えがあります。今回のまちなみウォッチングでは本町区をはじめとし北国街道の宿場町、城下町、商業町を見ることができました。

その背景には、市民が主導となり官・民・学が一体となって街並み保存に取り組んでいると聞き、まちづくりに対する市民の意識の高さを感じることができました。

まちづくりの拠点として再生された旧笠原邸「ほんまち町屋館」は多くの地元の人や観光客で賑わっていました。

私自身も現在、塩尻の商店街のまちづくり・活性化に関わっています。商店街は昭和の初め大火があったということもあり歴史的な建造物は残っていませんが、それぞれの町の魅力を探りどの様に生かしていくか...。貴重な体験となりました。

長野の門前で「あるしてくと」の会開催

がんばれ! まちの建築家

オフィスエム 代表 寺島 純子



6月20日、長野市の門前にできた新小路カフェにて、「あるしてくと」の会が開かれました。当日は山口代表はじめ20人以上の参加者が集まり、建物の上に住んでいる信大生の飛び入り参加などもあり、楽しい会になりました。みなさん、ありがとうございました。

「あるしてくと」は、JIA長野県クラブが9号まで発行してきた「信州の建築家とつくる家」を受け継ぎつつも、オフィスエム発刊の新しい本として創刊しました。これからも少しずつ内容を充実させながら、愛情を持って育てていきたいと思っています。本のクオリティは、参加してくださるみなさんの建築のクオリティでもあります。気の抜けた作品を提出した場合は、編集が却下することもある(?)ぐらいの気持ちで制作していますので、みなさん気合を入れて関わってください。

また、2号が無事発刊となりましたら、「あるしてくと」の会を開きたいと

思います。建築家とは、ただ家を建てるだけでなく、まちを考え、人の暮らしをみつめ、生きていくことに関わっていく人たちだと思っていますので、がんばってください! 本作りを通して私も応援し続けていきたいと思っています。





事業委員になり9年目ですが、初めて信大の講評会を見学してきました。

初めに、塩尻市の、えんぱーくを設計された、柳澤潤氏の講演が1時間ほどあり、その後、4ヶ月間の短期間で、各自が設計のテーマを設定した課題設計を図面・模型まで制作した作品の、15名による発表(5分)・質疑応答(8分)…移動(2分)その後、金・銀・銅賞 各1作品を選出するという過密なスケジュールのものでした。

審査員は先程講演された、柳澤潤氏・信大准教授の寺内美紀子先生・長野県クラブ所属の児野 登 非常勤講師・川上恵一特任教授計4名

課題設計とはいえ、そのまま卒業設計にしても十分と言える作品が多く、作品より学生視点からのユニークな発想と、熱いものを感じ、良い刺激を受けてきました。

例年の卒業設計コンクールは、7作品程の出展でしたが来年は15作品の出展と聞いております。展示場所と展示台、時間的な割り振りを、出展された学生方々に失礼が無いよう、今後対応していかなねばと、頭を悩ませております。

例年の卒業設計コンクールは、7作品程の出展でしたが来年は15作品の出展と聞いております。展示場所と展示台、時間的な割り振りを、出展された学生方々に失礼が無いよう、今後対応していかなねばと、頭を悩ませております。

サントミュージアム音響測定会

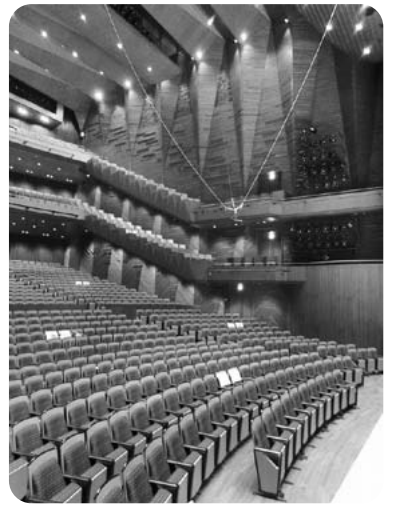
長島 三夫



今年10月のオープンを迎える上田市交流文化芸術センター 名前も“サントミュージアム”と決まり現在外構工事が最終段階を迎えている。

そんななかで施工者の鹿島建設・宮下組主催で音響測定会が開催された。設計者の柳澤孝彦氏の事務所から事前にチケット予約の連絡がありJIA長野県クラブ関係で100人を超す参加があった。チケットが手に入らなかった人たちがから多くの問い合わせがあったと関係者から聞こえてきた。

満員の状態で残響時間、インパルス応答の測定を行うことが目的で行ったようだがその結果はどんなものだったのかは知る由もない。1600人が静まり返る瞬間は、何が始まるのかと期待と不安が交差する。そんな中咳ばらいをする者で雰囲気壊れる。静かにしなければと思えば思うほど出来ない人ってどこにもいるんですよ。大勢の中でもひとりの咳ばらいがこんなに大きいものかとかえってびっくりさせる。そこにTSP信号という特殊な信号が舞台上の丸いスピーカから流れ、この信号を客席に設



置したマイクロフォンで集音し測定することで音響を測定する。

その後、演奏会が行われ、ベートーベン、コダーイ、シューマン、ヴィヴァルディ、そしてモーツァルトの弦楽オーケストラに酔ってきた。

これを機に上田市は文化に触れる機会を多くし、建物だけに終わらぬように、我々に課せられた課題は大きいものだと痛感してきた。

第8回 松本安曇野住宅建築展「ザ・スライドショー」

小川原吉宏



本年までの企画タイトル・会場構成者です。

- | | | | | |
|-----|-------|-------------|-----|----|
| 第1回 | 2007年 | パネル展示 | 全 | 員 |
| 第2回 | 2008年 | 「プロセス」 | 全 | 員 |
| 第3回 | 2009年 | 「時と住まい」 | 川上 | 恵一 |
| 第4回 | 2010年 | 「内と外」 | 荒井 | 洋 |
| 第5回 | 2011年 | 「あそびごころ」 | 丸山 | 和男 |
| 第6回 | 2012年 | 「市中山居」 | 藤松 | 幹雄 |
| 第7回 | 2013年 | 「ひかりと住まい」 | 林 | 隆 |
| 第8回 | 2014年 | 「ザ・スライドショー」 | 小川原 | 吉宏 |

8年目を迎えた建築展、パネル・模型展示とインスタレーションという前回までの趣向を変え、映像表現で展示空間を構成し、住宅の魅力を実感的に体感する暮らしのビジュアルプレゼンテーションという試みで開催しました。

会場構成、説明文記載についても議論の末、投影する建築のちからで勝負しようということで決まりました。

以前の展示のような手造り感などが薄れたとの感想もありましたが建

築のバーチャルリアリティー体感展示など、今後に繋がる新たな発見もありました。

同時開催している子供ワークショップ「インスタント建築」も8年目を迎え荒井さんのアイデアも円熟味を増しており、今回も大盛況に終わりました。

今後の会場構成は山田健一郎、尾日向辰文、野口大介と続いていきます。

住宅建築が地域の文化として認識してもらうことも我々の役割だと思います。

一般の方々に発信する試みが、県内各地に拡散していけばと願っています。



新入準会員の紹介
山田 真一



このたび、準会員として加入いたしました、かわかみ建築設計室の山田真一と申します。大学院卒業後、新建築社にて『新建築』の編集スタッフとして勤務したのち、2010年に地元松本に帰郷し、設計の道を目指すことになりました。当初は編集者の視点と設計者の視点、東京と信州の地域性や環境への向き合

い方の違いなど戸惑うこともありましたが、県クラブの皆様の繋がり強さや、地元に対する愛着・敬意こそが地域の多様性を守り、豊かさを担保していることを肌で感じ、私も日々精進しなければと気持ちを新たにしております。先輩方のアドバイスをいただきつつ、微力ながら本会に貢献ができればと考えております。

協力会だより

お客様の喜ぶ顔が見える製品を造り提供し続ける

株式会社山崎屋木工製作所 代表取締役：山崎慎一郎
・家具事業部(特注家具、建具、キッチン、什器)：大谷健一郎
・木製サッシ事業部(Curationer)：竹内 港



山崎慎一郎



大谷健一郎



竹内 港

山崎屋木工製作所は祖父である山崎房太郎により、昭和33年に住宅家具製造業として創業したのが始まりです。先代の山崎一幸が、多様化する様々なお客様のご要望に応えるべく、NCマシン、大型プレス、各種最新鋭の設備を導入し、特注キッチン、店舗、施設什器も併せて製作可能にしてきた。また、東日本大震災が契機となり、「木」は持続可能(サステナブル)で、環境を最小限の破壊にとどめ、持続して資源を利用できる開発の一端が「木製サッシ」である事が解った。一般の

工場 〒387-0017 長野県千曲市中555-1 TEL・FAX:026-272-2765 MP:家具事業部 070-1377-5551/木製サッシ事業部 070-1407-5551
e-mail: info@yamazakiyamokko.co.jp・info@curationer.jp HP: http://www.yamazakiyamokko.co.jp・http://curationer.jp

Facebook: https://www.facebook.com/yamazakiyamokko

サッシを「断熱木製サッシ」にする事で、更にエネルギー、環境問題の解決に寄与でき、ヒートショック等の健康被害を軽減できることも勉強した。また、各地域材を利用した産業としても成立する。この豊かな資源のある長野県で地域材を使用した、「断熱木製サッシ」を日本の住宅、ビルの構築物に標準品となる事を目的として、欧州の最新鋭のマシンを装備、最先端のノウハウを得て、各種性能試験等を繰り返し、家具事業部と共に木製サッシ事業部を立ち上げ、断熱木製サッシを製造している。

今回、JIA長野県クラブに入会する事ができとても嬉しく感じております。先輩方の培ってこられた風土を大切にしながら、質の高い建築と豊かな環境のために、新たな取り組みなどを通じ、益々JIA長野県クラブが発展できる様、微力ながらご協力を致す所存です。

暮らしをまもる 住まいを魅せる

ケイミュー株式会社 長野営業所 水本 照久



弊社は2003年12月、クボタと松下電工(現：パナソニック)の住宅外装建材部門が事業統合し、クボタ松下電工外装として誕生致しました。そして2010年10月、更なる成長・進化に向けて、「ケイミュー株式会社」に社名変更致しました。

屋根・外壁・雨といの外廻り専門企業として、これまで培ってきた経験や技術を結集させ、住まいの「安全・安心・住宅美」に貢献し、

「快適・エコ」の更なる進化を目指し、次世代の住まいづくりに貢献して参りたいと考えています。

この度、JIA長野県クラブの協力会員として入会させて頂く事になり、会員の皆様にも、少しでもお役立ちできる商品の開発並びに情報提供の機会をご提供できるよう、取組んで参ります。何卒宜しくお願い申し上げます。

〒380-0916 長野県長野市大字稲葉字中千田沖2188-1 TEL:026-223-7831

ステンドグラスの色彩が、住まいをさりげなく、美しく、そして暖かく彩ります。

エス・ジー・オー・信州 新海 長



ステンドグラス、サンドブラスト等を中心に、建築物への装飾ガラス全般を規格デザインから、世界にたった一つだけのオリジナルデザインまで、全てがハンドメイドの作品を注文制作する

創業23年のステンドグラス工房です。

入会を機に、自身の仕事のより向上を目指し、また、新しい出会いに希望を膨らませております。どうぞ宜しくお願い致します。

〒390-0823 長野県松本市中山1592-2 TEL:0263-28-3933 FAX:0263-28-5577

夏のセミナー報告 —— JIA長野県クラブ事務局 佐藤 清美

7月25日 夏のセミナーが開催されました。午前中は小諸市 中棚荘で幹事会を行い、登録有形文化財の「はりこし亭」で美しくおいしい昼食をいただきました。

午後からは「坂のまち小諸を歩く」東京から参加の2名を含め31名参加。納涼会は標高2000メートルの高峰高原ホテルへ、暑い日だけに涼しさが格別でした。29名参加でテーブルにはナイフとフォーク、いつもよりちょっと畏まった感じの納涼会となりました。早起きした翌朝は雲海と朝日に感動しました。

参加されたみなさん、会場手配からルートや資料作成までしていただいた甘利さんありがとうございました。

毎年恒例となっている行事ですが、より多くの方に参加していただけるようにと関係委員会で考え、今回は開催地を変えセミナーの内容も町歩きとなりました。

これからも地域や建築を学ぶ機会となり、何でも言い合える語りの場となり、行ってみたら意外と面白かったと思えるような会の活動を楽しみにしています。

冬のセミナーは12月6日(土)・7日(日)です。今年は2日間、是非今からスケジュールを調整してご参加ください!

開催したイベント

- 7月25日(金)・・・第1回幹事会 夏のセミナー・納涼会
小諸まちなみウォッチング
- 8月23日(土)・・・上田市サントミュージアム音響測定試奏会
- 9月11日(木)・・・上田情報ビジネス専門学校
ものづくりの楽しさを伝える雑学講座 講師：林 隆
- 9月25日(木)～27日(土)・・・JIA建築家大会2014岡山

今後の行事予定

12月6日(土)～7日(日)・・・冬のセミナー



編集人/吉田 満 発行人/山口康憲
発行所/JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内
TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303
URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

編集後記

猛暑やゲリラ豪雨・土砂災害といった多くの被害をもたらした夏もお盆過ぎた頃からすっかり肌寒くなってきました。この時期は内外問わずいろいろな行事が行われました。

今号はそんな猛暑の中行われました小諸まちなみウォッチングを中心に、香山先生や長野地域会以外の方にも多くの記事を頂きました。また、長野地域会以外の行事にも積極的に参加して頂き記事を頂きました。会の枠組みを外して少しでも楽しんで頂けるような「建築家通信」にして行きたいと思えます。 吉田 満

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。